諦めた脚本家の夢を

もう一度目指し、大好きな地元を

舞台にした映画を世の中に発表したい。

小笠原つむぎ　25歳　公務員

夢を見るようになったきっかけ

美しい海に囲まれた地元の島を

舞台にした映画を撮りたいと思い立ち、

脚本家を目指す。

18歳で美大の映像学科に入って21歳で

卒業。その後、映画制作会社などを

受けるも失敗。

夢を見るようになったきっかけ

その後、家族のすすめもあり

東京で22歳から公務員に。

夢を見るようになったきっかけ

それでも映画制作の夢は諦められず、

転職活動を検討したこともありましたが、

奨学金の返済もあり、

なかなか心を決められずにいました。

夢を見るようになったきっかけ

先日、ダメ元で応募した映画の

シナリオがコンペで入賞。

夢を見るようになったきっかけ

このシナリオを元に予告編を

自主で制作、脚本家への道と

映画制作への再挑戦をと

考えるようになりました。

夢を見るようになったきっかけ

そんな時にこの支援金を発見し、

いてもたってもいられず応募を決めました。

支援を受けた後のプラン

STEP 1
2024年 4月～

奨学金返済ののち、
昔の仲間に声をかけて、
チーム作りと予算組みに
取りかかります。

STEP 2
2024年 7月～

大枠のプロットを
完成させて、コンテへ。
キャスティングプランも
同時に進行します。

STEP 3
2024年 9月～

撮影を開始。

STEP 4
2024年 12月

クランクアップ。
試写会を実施。

支援を受けた後のプラン

STEP5

2024年 12月

完成した予告編をもって、転職活動へ。

脚本家として、美しい地元を舞台にした

映画の本篇を制作、発表したいと思っています。

最後にひとこと

以上が私の夢、

「諦めた脚本家の夢をもう一度目指し、

大好きな地元を舞台にした映画を世の中に発表したい。」

となります。もし、少しでもワクワクしていただけたら、

ご支援のほどよろしくお願いいたします。